



在京古高同窓会会報
第56号

〒352-0031
新座市西堀2-17-37
在京古高同窓会事務局

☎・FAX (042) 494-1598
URL: http://在京古高同窓会.jp
Email: skyoji@jcom.home.ne.jp

発行責任: 大友 文博
編集長: 亀井 明
印刷: (株)ケーヨー

上野で会いましょう

会長 鹿野 軍勝



皆様、その後如何お過ごしでしょうか。6月の総会でお会いしてから早や半年近くが経ってしまいました。年が明けると、四校合同の新年会が待っております。上野でお会いしましょう。

さて、昨年は戦後70年というところで、日中・日韓の関係をはじめ色々な議論が行われ、安倍総理の談話発表、日中・日韓会談が行われました。しかしながら、本当に「寛谷と和解」の心が大勢を占めるには未だ時間がかかりそうな気がします。米国内ですら南北戦争後150年経っても未だしという感がない訳でもないような気がします。

昨年はまた、集団的自衛権の行使に関する憲法の解釈の変更が行われ、続いて安全保障に関する法律が整備されました。この件については賛否両論がありますが、法的な仕組みが無いため130億ドルの資金提供を行いながら殆ど感謝されることのなかった25年前の

ことを思い起こすと、法的な枠組みが整備されたのは良かったと思っております。

ところで、昨年は猛暑があったかと思うと、豪雨に見舞われ、大崎地方でも被害がでました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。自然が相手ですと、想定外の色々おこるもですね。最後に、我が同窓会のことについて少しばかり。10月下旬には震災後の女川町の復興の様子を見ようということ、「ふるさと探訪2015」が開催されました。古川あるいは仙台の同窓生も交えての楽しい旅ができました。この後は、合同新年会を待つばかりですが、是非多くの会員の皆様と上野でお会いしたいと念じております。それでは、皆様、どうぞ楽しいお正月をお過ごしください

新年のご挨拶

古川高等学校校長 浅野 悟



在京古高同窓会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4月-翌3月、年会費は2,000円です。振り込み用紙が同封された方は会費納入をお願いします。
- ・会の健全運営のため、賛助金のご協力をお願いします。
- ・次回会報第57号は2016年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

まず昨年9月の関東・東北豪雨による水害では、いろいろと心配をいただきましたこと、お礼申し上げます。

報道等でもご承知の通り、古川の洪井川の堤防が決壊し、三本木のYKK工場の北西部一帯が洪水になりました。全国放送で実況中継されましたので、びっくりされた同窓生の方々も多かったと思います。

大崎地区では、前日の夜半から未明にかけての比較的短時間の豪雨であったこと、堤防が決壊した洪井川は、鳴瀬川の支流の多田川のそのまた支流という小さな河川だったために、栃木の鬼怒川のような大洪水にはなりませんでしたが、本校生数名の自宅や車が浸水したりと大きな被害に遭いました。関東方面を含めて、様々な方面からお見舞いの連絡をいただきました。ありがとうございます。

また、10月の「ふるさと探訪ツアー」には参加できず、大変申し訳ありませんでした。在仙同窓会や県庁同窓会の皆様のご尽力により、視察先の女川町へ連絡をとっていただきました。有意義な被災地視察になり、盛会裡にツアーが実施できましたことおめでとうございませう。

ツアーに参加されました同窓生の皆様には、被災地の様子を在京

同窓生の皆さんにお伝えいただきますようお願いいたします。
ツアー当日は、築館高校の創立10周年記念式典(築女高と統合し、新高校になったという定義です)があり、私はそちらに参加させていただきます。

同窓生の皆様もご承知の通り、本年は本校創立120年目にあたり、来年(平成29年)に創立120周年を迎えます。記念の行事をどうするかについては、すでに動き始めましたところです。在京同窓会の皆様にもご協力いただくことになるかと思いますが、よろしくお願いたします。

お詫びやお願いばかり続いて申し訳ありませんが、1月末の在京四校新年の集い、卒業生への賞雪賞授与式など、今後も在京同窓会の皆様にはお力添えをいただくことが続きますが、よろしくお願いたします。

春の会報でもお知らせしましたが、校内に委員会を設け、本校の将来構想「古高プラン(仮称)」を検討しています。「一段高いレベルの文武両道」を目標に、具体策を練っている段階ですが、是非在京同窓生諸先輩方の「広い視野に立った」ご意見やご助言を賜れば幸いです。

今後とも変わらぬご支援をお願いいたしますとともに、在京古高同窓会のみならずのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

お知らせ

第23回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」

【日時】平成28年1月23日(土)
11:00~15:00
講演
原口 證氏(古川工業高校 昭和39年卒)
~円周率暗記記録10万桁達成(世界記録保持者)~
演題「認知症予防の方法」(仮題)
~知ってみれば気軽~

【会場】上野 精養軒
電話 (3821-2181)

【会費】8,000円

【交通案内】JR上野駅公園口から徒歩5分



『講演講師』原口 證氏 プロフィール

自然食品販売会社経営。執筆、全国で講演など多彩な活動を行っている。

1964年 宮城県古川工業高校卒

1991年 放送大学業

2004年 円周率暗記記録54000桁達成(世界記録)

2004年 68000桁達成(世界記録)

2005年 83431桁達成(世界記録)

2006年 100000桁達成(世界記録)

新年のご挨拶

古川高校同窓会

会長 渡邊 義之



在京同窓生の皆様、明けましておめでとうございます。今年も皆様方にとりましてご健勝で倅せ多き年になりますよう心からご祈念申し上げます。

また常日頃より同窓会活動に対し、格別のご厚情を賜り衷心より謝意を表する次第であります。今年も鹿野会長さんを中心に在京古高同窓会が素晴らしい活動を展開されることを確信しております。

さて、私は昨年の本部同窓会の総会の挨拶の中で、同窓会の有様について、過去と現在と未来との対話であると申し上げましたが、このことを同窓会活動の基本的スタンスと考え、いろいろと活動して参ります。

そのために第一に、未来の同窓会活動を担う在校生と同窓生の交流に力を注いでいきたいと思っております。部活動やクラブ活動などでの先輩と在校生の積極的な交流を働き掛けたり、同窓生と在校

生との対話の会を学校のご理解があれば実現したいと思っております。それらの活動を通し、若い彼等、彼女等が同窓生に何を求めているのかを知り、若い力を同窓会活動の活性化の栄養分にして行きたいと思案しております。

第二に、現在、在校生に対する支援として、生徒会活動に五十万円、奨学金として三十六万円、それに入学・卒業生への記念品の贈呈をしてありますが、同窓生各位のより一層のご支援を頂けるのであればこれを拡充したいと考えております。

第三に、いつの時代においても組織のマンネリ化は避けられませんが、同窓会組織が機動的に活動できるような種々の改革を進めてまいる所存であります。

終わりに、老・壮・青の同窓生、即ち過去と現在と未来の三位一体となれるような同窓会活動を少しでも前進させたいと願っておりますので、皆様にも今後ともご支援を賜りますようお願いし、新年のごあいさついたします。(昭34年卒)

近況報告

事務局長 遠藤 直樹



在京同窓会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は日本各地で異常気象による洪水などの災害が発生しましたが、古川の地も渋井川が決壊し、一部の地域が洪水の被害に遭いました。ご心配をおかけしましたが、本校生徒では2名が床下浸水、自家用車水没の被害に遭いましたが、幸いなことに、学校生活に支障が出るような大きな影響はありませんでした。

古高生の8月以降の活躍についてですが、県高校新人において、陸上競技部は門間由來が女子1500mで2位入賞を始め、6種目入賞を果たしました。

特筆すべきは共学になり、初の女子リレー種目で決勝に進出した。門間については東北新人大会で4位入賞し、来年度のインターハイ出場が期待がかかります。

また、男子卓球部は、団体で久しぶりのベスト8進出を果たしました。卓球部は、かつて日本代表選手を輩出した伝統ある部で、古豪復活の足がかりになってもらいたいと思っております。

文化部に目を向ければ、囲碁将棋部で、米倉宏歩が県高校新人大会で2位となり、東北高校将棋新人大会、全国高校将棋新人大会に出場しました。今年も女子の活躍が目立っており、男子生徒の奮起を促すよう叱咤激励をお願いいた

します。

本年度の本部同窓会総会は8月8日に、鹿野軍勝在京同窓会会長、各支部の会長を始め、160名を越えるご参会をいただきました。記念講演では本校56年卒の自治医科大学教授力山敏樹氏より「消化器外科学のトップランナーと地域医療の融合をめざして」と題して講演いただきました。

力山先生は、日本で数名しかでない肝胆膵臓の高難度手術を施す名医で、実際のがんの手術事例などを動画を交えて講演いただきました。ながら現実離れた医療ドラマのような講演に、参加者全員が真剣に聞き入っていました。

その後、懇親会が行われ、多くの同窓生の募る話の中、盛会のうちに総会を終えることができました。

平成28年は、古川高校創立120年を迎えます。それに先立ちまして、同窓生名簿の作成のため、ハガキが委託業者「サラト」から届いていると思えます。できるだけ正確な名簿を作成したいと考えておりますので、多くの同窓生の情報をお寄せいただければと思います。

最後に1月23日の旧市内四校新年会が盛会に開催されるよう祈念するとともに、これからも本部同窓会への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。(昭61年卒)

平成26年度 定時総会出席者名簿 (敬称略)

(来賓8名他) 浅野 悟 (校長 白石出身) 渡邊 義之 (同窓会会長 S34卒 東大崎出身) 相澤 信 (同窓会副会長 S35 古川出身) 遠藤 直樹 (同窓会事務局長 S61卒 田尻出身) 鈴木 忠司 (在仙同窓会会長 S48 中新田出身) 高橋 英文 (大崎市副市長 S47卒 古川出身) 阿部 重一 (築高同窓会東京支部事務局長 S51築高卒 高清水出身) 橋本千加子 (築高同窓会東京支部監事 S38築女卒 築館出身)

(会員59名) (カッコ内は出身地)

昭24	門脇 健 (東大崎)	昭30	岸 康男 (鳴子)	昭33	福原 和夫 (古川)	昭36	我妻 久次 (古川)	昭42	木 美穂 (田尻)
昭27	氏家 明 (岩出山)		佐 三 (西大崎)	昭35	梅 沢 (古川)	昭38	佐 信 (古川)	昭44	藤 芳次 (田尻)
	佐藤 清 (中野川)		曾 廣 (小野田)	昭36	野 勝 (古川)	昭39	後 雅 (古川)	昭45	門 隆 (小野田)
昭28	中川 紘輔 (志田)		高 武 (高清水)		野 隆 (古川)		藤 雅 (古川)	昭46	澤 隆 (小野田)
	早坂 裕明 (小野田)		野 正吉 (志田)		野 隆 (古川)		藤 雅 (古川)	昭47	相 隆 (小野田)
昭29	早坂 裕明 (小野田)		野 正吉 (志田)		野 隆 (古川)		藤 雅 (古川)	昭55	猪 隆 (小野田)
	早坂 裕明 (小野田)		野 正吉 (志田)		野 隆 (古川)		藤 雅 (古川)	昭61	猪 隆 (小野田)
昭30	高橋 清 (富山)	昭31	福原 和夫 (古川)		福原 和夫 (古川)	昭41	木 秀 (古川)	昭55	猪 隆 (小野田)
	相原 光彦 (田尻)	昭33	福原 和夫 (古川)		福原 和夫 (古川)	昭42	木 秀 (古川)	昭61	猪 隆 (小野田)
	尾崎 喜明 (東大崎)		福原 和夫 (古川)		福原 和夫 (古川)	昭42	木 秀 (古川)	昭61	猪 隆 (小野田)
	門脇 敏明 (東大崎)		福原 和夫 (古川)		福原 和夫 (古川)	昭42	木 秀 (古川)	昭61	猪 隆 (小野田)

総会報告

平成27年度

平成27年度定時総会開催

16月27日上野精養軒

平成27年度定時総会は6月27日(土)の11時半から、東京台東区の上野精養軒において開催されました。

物故者への黙祷、校歌斉唱に続いて鹿野軍勝在京同窓会会長の挨拶があり、来賓として渡邊義之本部同窓会会長、浅野悟古高校長よりご挨拶をいただき、議長に佐々木昭美(昭42年卒)を選出し、議事に入り、活動報告や議案を承認いたしました。(4面参照)

〔第1号議案〕

平成26年度活動報告承認の件

〔第2号議案〕

平成26年度決算報告承認の件

〔第3号議案〕

平成27年度活動計画承認の件

〔第4号議案〕

平成27年度予算案承認の件

また来賓として高橋英文大崎市副市長(昭47年卒)、姉妹校である築高から阿部重一同窓会東京支部事務局長、橋本千加子監事のほか、相澤信本部同窓会副会長、遠藤直樹事務局長、鈴木忠司在仙同窓会会長のご臨席を賜りました。

総会の部終了後は、NHK『その時歴史が動いた』でご存じの方も多い元NHKアナウンサー松平定知氏の講演『伊達政宗』を身近

で聞くことができ、大変楽しい時間を過ごすことができました。松平氏があの巧妙な独特の口調で伊達政宗の実像に迫った話に夢中になりました。以下は松平氏の講演です。



松平定知氏の講演

伊達政宗は2度も切腹・お家断絶の危機に直面しているが、度肝を抜くパフォーマンスでこれを切りぬけている。

一度目は、秀吉の小田原北条攻めへの参戦に遅れたときである。問責特使の前田利家らへの遅参の弁明の後に、「関白殿下の茶頭を務めておられる千利休殿に、茶を習いたいとお伝えください」と素っ頓狂な提案をした政宗に秀吉は興味を持ち、謁見を許した。陣に入ってきた政宗に、多くの人の眼が釘付けになった。鬘(まげ)を落としたザンバラ頭で、甲冑の上には白い陣羽織を羽織った死に装束で、自分は死を覚悟している、ということを示した。

度肝を抜く演出が嫌いでない秀吉の性格を分かった上での命がけ

のプレゼンテーションであり「謀る力」である。

こうしたアピールは、政宗の性格によるところが大きい。その陰に、政宗の性格を熟知し、数々のピンチを救った政宗の傅役(もりやく)、片倉小十郎の存在があった。

秀吉はこの趣向に喜び、平伏する政宗の首の当たりを扇でたたき、「もう少し遅かったら、ここが危なかったのう」と笑ったと伝えられている。秀吉には、天下統一にあたり、政宗を臣従させておけば奥州は安定するし、奥州から京の都までは遠いという計算もあったかもしれない。

二度目に政宗が秀吉に許しを乞うたのは、奥州で発生した大規模な一揆を政宗が裏で糸を引いていると秀吉に密告され、その疑惑を

晴らすために政宗が京都に行くことになった時である。

京都の都大路をゆく政宗一行は、金箔が施された磔柱を先頭に、行列の後ろには白装束をまとった政宗が白馬に悠然と乗っていた。密告の証拠には政宗の花押が添えられていたが、政宗は自分の花押は小さな穴が空いていてと強弁して、秀吉を納得させた。と伝えられおり、松平氏はこれも小十郎の知恵と政宗のタレント性と述べている。

松平氏は、政宗は秀吉、次に家康がほぼ天下を治める時代の情勢を見ながら、遅れてきた天下人として思いもよらぬ方法で天下を狙っていたのではないかと。政宗は産業育成を基に、海外貿易で富を増やし、さらにヨーロッパのスペイン・ローマ法王の力を借りてあわよくば天下人になる作戦を練るといって極めてグローバルな

視野を持った異色の先進的戦国大名であったと述べている。

政宗は外国との交易機会を窺っていたが、1611年(慶長16年)仙台城において、フランシスコ会の宣教師ルイス・ソテロとスペインの答礼大使セバスチャン・ビスカイノと会い、1613年(慶長18年)、家康から海外貿易の許可を得て、月浦港から支倉常長の外交使節(慶長遣欧使節団)を出発させた。

都から離れた奥州人が天下を狙うためには、領内の産業を育成し、更に海外貿易により強い経済基盤を作るとともに武器なども含めた欧州の先進の技術を取り入れることが必要と考えていたのではないかと。政宗はまさに現代的な視点をもっていた武将であるという。



会員の皆さんと

<第1号議案> 平成26年度 活動報告

平成26年4月1日～平成27年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成26年 5月10日(土)	在仙古高同窓会総会出席(高橋前会長)	KKRホテル仙台
5月17日(土)	会報「蛭雪53号」及び総会案内発送(会員900名)	信陵会館
6月21日(土)	定時総会、懇親会 講演：鈴木富三郎氏「日本人の精神文化を語る」	上野精養軒
7月13日(日)	築館高校同窓会東京支部総会出席 (高橋前会長、鹿野会長、曾根副会長、佐々木事務局長)	KKRホテル仙台
8月9日(土)	本部同窓会総会出席(鹿野会長、児玉副会長)	大崎市「芙蓉閣」
10月25日(土)	会員交流会「江戸・東京探訪ツアー2014」 お茶の水・神明神社	お茶の水・神明神社
12月21日(日)	会報「蛭雪54号」及び四校合同新年会案内の発送(会員886名)	信陵会館
平成27年 1月24日(土)	「第22回 旧古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 開催(幹事校・在京古高同窓会) (古高94名、黎明65名、古工47名、古学40名、四校来賓3名、計249名出席)	上野精養軒
3月1日(日)	古高卒業式出席、並びに「東京蛭雪賞」授与 (鹿野会長、児玉副会長)	古川高校

<第3号議案> 平成27年度 活動計画案

平成27年4月1日～平成28年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成27年 5月16日(土)	在仙古高同窓会総会出席(鹿野会長)	KKRホテル仙台
5月24日(日)	会報「蛭雪55号」と総会案内発送(会員885名)	信陵会館
6月27日(土)	定時総会、懇親会 講演：松平定知氏「伊達政宗」	上野精養軒
7月11日(土)	築館高校同窓会東京支部総会出席 (鹿野会長 曾根副会長 佐々木事務局長)	KKRホテル東京
8月8日(土)	本部同窓会総会出席 (高橋前会長 鹿野会長 佐々木事務局長)	大崎市「芙蓉閣」
10月23日(金) ～24日(土)	会員交流会「ふるさと探訪ツアー2015」 (仙石線沿線の港町を探訪する旅)	女川～松島 ～塩釜～多賀城
12月19日(土)	会報「蛭雪56号」及び四校合同新年会案内の発送	信陵会館
平成28年 1月23日(土)	「第23回四校合同新年会」開催 (幹事校・古川工業高校関東同窓会)	上野精養軒
3月1日(土)	古高卒業式出席、並びに「東京蛭雪賞」授与	古川高校

◎役員・幹事会：信陵会館

- 第1回 H.26年 5月17日(土) 16名(総会運営他)
- 第2回 H.26年10月4日(土) 14名
(在京・本部総会報告、54号会報発行内容他)
- 第3回 H.26年12月21日(日) 14名
(「江戸・東京探訪ツアー」報告、四校新年会準備他)
- 第4回 H.27年 3月21日(土) 14名
(四校新年会報告、定時総会準備他)

◎四校合同幹事会：東京文化会館会議室他

- 第1回 H.26年10月27日(月)
 - 第2回 H.26年12月3日(水)
 - 第3回 H.27年 1月16日(金)
 - 第4回 H.27年 2月28日(土)
- 古高出席者：鹿野 曾根 児玉 佐々木(恭)
大友(文) 菊地(務)

◎役員・幹事会：

- 定例は年間4回、その他必要事案により関係役員・幹事会を開催
- 第1回定例5月24日開催：総会運営他
- 第2回定例10月3日開催：総会報告他

◎四校合同幹事会：

- 四校合同新年会(H28.1.23)にむけて、10月下旬から1月中旬までの間に3～4回開催する。
- 古高出席者：鹿野 曾根 児玉 大友(文)
佐々木(恭) 菊地(務)

第2・4号議案 平成26年度決算／平成27年度予算案

収入の部

科目	H26年度決算額(円)	摘要	H27年度予算額(円)
年会費	622,000	311人 / 325人	650,000
賛助金	243,710	77人	250,000
広告料	40,000	企業・個人広告	20,000
寄付・祝儀金	0	個人寄付	10,000
雑収入	76,371	四校新年会剰余金他	30,000
収入計	982,081		960,000
前期繰越金	936,736		825,843
合計	1,918,817		1,785,843

支出の部

科目	金額	摘要	金額
会議費	70,347	役員・幹事会資料他	70,000
図書印刷費	466,000	会報、案内状、封筒他	470,000
事務用品費	5,198	コピー、文具代他	8,000
事務所経費	56,800	信陵会館年間契約料他	40,000
通信費	211,862	会報発送費、返信はがき代他	220,000
慶弔費	91,650	東京蛭雪賞他	90,000
旅費交通費	83,000	本部総会、卒業式出席旅費他	80,000
活動費	69,535	ホームページ作成費他/同メンテナンス費他	50,000
雑費	38,582	年会費振込手数料他	40,000
支出計	1,092,974		1,068,000
次期繰越金	825,843		717,843
合計	1,918,817		1,785,843

「ふるさと探訪ツアー 2015」 みんなまで出かけよう女川へ

今回のふるさと探訪ツアーはJR女川線が全線開通を記念して、仙石線經由石巻駅乗換えして震災後の女川町を訪ねて復興と取り組みを知り、認識を深めました。その後渡波のサンファン号(支倉常長遣欧使節船)を訪ねて往時を思い起こしました。翌日松島から遊覧船で塩釜へ渡り、今まで行けなかった多賀城の東北歴史博物館を訪ねた2日間でした。

特に今回の女川町視察調査には、気仙沼土木事務所つくり担当尾形拓也様、県土木部次長峯浦康宏様(高30回卒)や県出納局長佐々木源様(高26回卒)らのご支援を貰い、且つ女川町副町長東野真人様、説明役の産業振興課長阿部敏彦様、柳沼利明様、マイクロボス手配と街並案内して貰いました復興推進課伊藤勝基様の方々からご助力いただきました。
心より御礼申し上げます。皆様方のご支援ご助力で、実りある探訪ツアーを行いましたこと感謝いたします。

(事務局 昭38佐々木恭次)

「ふるさと探訪ツアー 2015」

参加者(総勢23名) (敬称略)

- 【本部同窓会】
渡邊義之(昭34) 相澤 信(昭35) 長崎 徹(昭38)
- 【在仙同窓会】
高橋健三(昭30) 堀越五郎(昭30) 荒谷正咲(昭38)
菅原四郎(昭38) 千葉治郎(昭40) 早坂胞吉(昭43)
- 【在京同窓会】
春田絃輔(昭27) 門脇喜代志(昭30) 高橋俊裕(昭33)
渡邊紘也(昭33) 鹿野軍勝(昭36) 佐々木恭次(昭38)
上野正司(昭39)
- 【交流会のみ】
菅原幸弘教頭 遠藤直樹(昭61) 平 秀毅(昭38)
大友文博(昭42) 鈴木忠司(昭48) 工藤昭裕(昭49)
小玉卓夫(昭49) 石巻高校長



女川医療センター玄関前、津波の高さ表示

「ふるさと探訪ツアー」

昭33年卒 渡邊 紘也

60年前、古高入学の年、鹿島台中学卒業生307人中高校進学者は127名、これでも前後の年に比べれば、高い進学率。

高校卒業までタクシーを含む乗用車はおろか、学校行事以外でバスに乗った経験もなく、高校入学で片道一時間の汽車・ディーゼル通学が貴重体験。

因南の意気に燃えたわけでもないが、高校卒業と同時に出走、結果、ふるさと探訪ツアーが故郷を見直す貴重な機会。今回は眼下に町を一望する丘の上に立つ白亜の城と見まがうばかりの女川町役場で復興推進課伊藤参事氏等の詳細な震災説明を受ける。

15mの大津波が全町を一飲みにし、この白亜の城まで押し寄せせる想像を絶する惨事。プレートテクトニクス論から三陸沖大地震は地震波から津波までの時間が短く、1mでも高いところまで避難する訓練徹底が今後の被害最小化への必須条件と思われるが、小生の住む

沼津市は東南海地震震源の真上、地震波と津波の間隔は5分弱と想定されていて逃げるという選択肢は大疑問、絶望感に襲われる。

但し、6500万年前の氷の彗星衝突時は数百米の津波が発生したとの説もあり、人知程度の浅知恵では対応不能、モーゼ神の降臨を待つ。

次に、支倉常長のサン・ファンパウイスタ号復元船館見学。この船は1611年の三陸津波被害からの復興を目指す伊達政宗が南蛮貿易で利益を確保し、あわよくば南蛮国の支援の下、徳川幕府転覆を狙ったとか。結果は伴わなかったものの、これこそ正に痛快無比な因南思想。総建設費40億円のサン・ファン館夢物語でした。

松島花ごころの湯新富亭での宿泊宴会、中新田の純米大吟醸酒伯楽星の差し入れもあり、大いに盛り上がる。



サン・ファン館の遣欧使節船

翌日は松島塩釜遊覧船、醜く整形手術された仁王岩や中空部が切断され双子島になった材木島が改めて津波の威力を痛感。東北歴史博物館はあまりの豪華さに圧倒される。学校教育に生かすこと切に願う。

「女川町の震災復興調査に参加して」

昭38年卒 菅原 四郎

今回のふるさと探訪は、全線復旧した仙石線乗車と女川町の東日本大震災の復興状況の視察と云うことで参加させて頂きました。

仙石線は、特別快速で仙台駅も改装中で、乗車番線等戸惑いもありましたが東北本線經由高城町で仙石線に接続し一路石巻へ、高城以降は数十年ぶりの乗車と特別快速でしたので、震災時に津波で電車が押し流された東名駅付近や高い丘の間で停車せず、多数の乗客が助かった地点の通過に気が付かなかつたのが悔やまれます。

石巻駅で乗り換え女川到着後、待ち合わせ時間の関係から先に昼食となり、女川駅から海鮮食堂へ、昼食後店の店主と思われる人から、店先から見渡せる範囲の海岸部で3軒以外、全て流され、高台に見える地域医療センター(病院)の駐車場等に避難した多数の人々が車ごと津波で流されたとも聞きました。

徒歩で嵩上げされた道路で医療センターへ到着後、眼下を見下ろすと、ほぼ更地になっており、報道等による被害の甚大さを再認識しました。地元宮城に在住しながら、今回が震災後、初めての女川町訪問であることが恥かしい限りです。付近を散策すると、七十七銀行犠牲者への献花台及び女川中学生提案による「一千年後迄震災を記憶させるモニュメント」(町内21ヶ所設置予定、報道で10月末に出島設置)があり、津波の到達高さを知らされました。

今回の視察窓口になった女川町復興推進課伊藤参事様の紹介により東野副町長様、阿部産業復興課長様の紹介、挨拶があり、女川町

のマイクロボスで交流館に移動し、阿部課長様より写真、資料等により、災害の惨状及び復興状況、計画の説明を受けました。



震災復興の説明

報道等によれば、今回の地震は牡鹿半島の東南東130km付深さ24km、マグニチュード8.8(後に9.0に変更)で津波は女川湾で14mですが、モニュメントによれば、約18.6m(標高16.8m+モニュメント1.8m)、町内奥では20m以上の高さ迄到達したと云う話もあります。

今回の地震津波による死者は女川町民10,014人の内、約8.3%827名(死亡者574名+死亡認定者253名)、そのうち約70%が60歳〜80歳であり、特に70歳代が多いそうです。又、住宅被害は4,411棟の内、全壊2,924棟(66.3%)、大規模半壊1,473棟(33.3%)もあり、被害なしは僅か477棟(10.8%)だそうです。復興状況としては、漁業中心の生活環境を考慮して、海の状況を確認し易くするため、高い防潮堤を作らず、国道398号を4m嵩上げし、5.4mとして防潮堤代わりを行うことで土地の換地、売却、転地を行っている。観光エリア、女川駅前商業エリア(10m嵩上げ)、更に公共施設集積地区を配置し、その上に商業、公共ゾー

ンからの避難を考慮し、6m幅以上の道路で結んだ住宅地を造成中（階段状にゾーンを配置）で、今後の災害に対応した計画作りを行っているとのこと。商業地区プロムナードは12月中旬にオープンしたいと言っており、他の町村よりは順調に進行していると思えました。

人間は15cmの津波で立っているのが困難、20cm以上で押し流されると、私は記憶していましたが、昔から「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていますので、我々も何時でも避難できる体制の準備が必要だと考えさせられました。

思えば、チリ地震津波の時、私の母が志津川で知人の結婚式があり、帰宅した後に津波がありました。翌日、現地へ急行した、花嫁の父親の惨状の話は、大変なもので、夏休みに現地へ行くと、漁船や小屋が内部の田畑に又、屋根の部分だけ残り、その中で生活している親子や、話によれば津波で湾内沖にある島付近迄、家ごと救助を叫びながら流され、次の波で戻ってきた、笑い話にもならないと涙ながらに語ってくれた住民もいました。



女川町復興工事

今回、関東・東北豪雨被害でも大崎市の渋井川（途中で多田川として鳴瀬川に合流）や富谷町の竹

林川（途中で宮川と合流後吉田川へ合流）、大和町の吉田川（消防署の1階も水没、消防車や救急車の移動避難待機）で洪水がありました。私事ですが、子供のころ親父の筏で親戚の家に行った記憶がありますが、それ以来の洪水で大崎市三本木坂本地区から古川市内迄国道4号線（昔は悲惨な事故が多、酷道死号線と呼ばれていた）が、冠水の為、通行止めになりました。

知人の話では、大崎市では22時過ぎに避難警報が携帯（エリアメール）に何回か鳴ったとのこと。

特に最近では、局地的、集中豪雨等が多発するので、現地で少量の降雨でも河川上流部付近の豪雨で氾濫の危険もあり、報道機関やエリアメール、地区の広報を確認することや、行政も避難時間を考慮して早めの情報提供、準備が必要と思われる。

ふるさと探訪ツアー

2015に参加して

昭43年卒 早坂 胞吉

ふるさと探訪参加は今回で2回目になりますが、特に今回は女川町の震災復興状況の視察を兼ねているとの事で非常に楽しみにしていました。

今年の3月20日過ぎに石巻へ女川まで鉄道の全線開通祝いがあったので、車で来たことがあるが、その時はまだ、駅前はまだ、海が見えるだけで何もなかったし、工事用のダンプが埃を上げて走り回っていた。

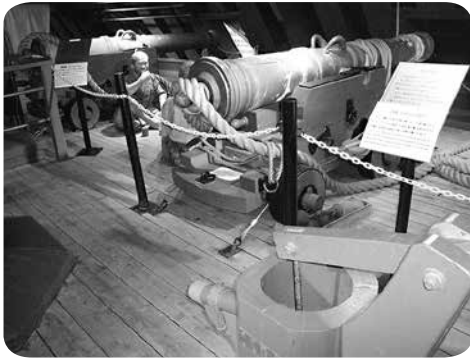
3月末時点では、駅舎より海側は何も建物がなかった。駅舎の2Fに温泉があったので、時間が有れば入りたかったですね。駅舎より海側を見ると建物が進んでいるのが見られた。

海側より駅舎を見ると綺麗な街並みが進んでいるのが感じられた。お昼の海鮮丼が非常に美味しかった。翌日、塩釜のマリンゲートで食べた海鮮丼より数段美味しかった。

午後から女川町の復興状況の説明を受けましたが、計画性を持って着実に進めているのが感じられ、マスクミ等でも放送されているように、町長を筆頭に若い人達が積極的にかかわって新しい街を作ろうとしているのが感じられました。

また、駅舎の西側の高台にある地域医療センターの1階の柱に津波到達点表示があったが、驚く以外言葉が出ない、津波の恐ろしさを感じた。

この高さ以下全て津波のヘッドロの中に入り、全て流されてしまった。千年に一度とは言え、後世には非伝えてほしいと思えました。（当時の中学生の提案で「千年後まで震災を記憶しやすく逃げる」と記したモニメントを町の主な場所に残そうと活動しているとの事・偉いですね）



サン・ファン・パウティスタ 船内

女川町を後にして、石巻市渡波の遣欧使節船「サンファンパウティスタ」の見学、一度は行って見たいと思っていた所ですが、こんなに整備されているとは思わなかった。

それにしても、外観と言え、内部と言え400年も前にこの様な船を建造し、荒波の太平洋を渡ったとは、想像を絶する感があります。一度は見せて置く場所ですね。

最後に、松島に戻り懇親会、大広間で皆さんとお酒を飲み語り、やはり夜の懇親会は格別ですね。この様な企画をして下さった在京事務局の佐々木さん及び在仙事務局の菅原さんに感謝致します。次回も参加し、親交を深めたいと考えて居ります。

会員による自由投稿

「南米・太平洋岸からアンデスを越えアマゾン川源流までの冒険旅行」(第1回)

昭42年卒 相澤 篤

「マウンテンバイク、トレッキング、高所登山を組み合わせた、AROUND SEVENTYの1ヶ月間に亘る大冒険！」などという大袈裟なタイトルで、登山用品・アウトドア用品を扱うM社等のご支援を受けた旅に今年8月中旬から9月中旬にかけてチャレンジしました。

チャリンコの旅、トレッキングの旅、そして、高峰での氷雪登山、どれもこれも私にとっては貴重な経験となり、限られた紙面では、語りつくせない、書きつくせない話題です。

先ず、本題に入る前に、「冒険」という大それた言葉を少しばかり整理させていただきます。

私は、サラリーマンの忙しい仕事を抱えていた頃から、アンデスでの一人旅と登山に嵌っていました。それは、私の場合、ある意味で無知のままの行動で、それそのものが

「冒険」と表現できるのかもありません。見たもの聞いたものが印象的でしたが、冷静に考えると、単に運よく無事に帰れた一人旅でした。

何かの本で読みましたが、「好奇心」、それは人類に与えられた特質である。その好奇心を充足するために、人は時に生命のリスクをも省みず未知の世界に一步を踏み出す。その行為を「冒険」と呼ぶ。とか「冒険には危険や、成果を上げられる確率の低さがつきもので、この意味でいつの時代にも未知なものへの挑戦、探検もすべて冒険と呼ばれてきた」とありました。冒険と名の付くものは全て過酷を伴いますが、結果として、単なる過酷となるか心地よさを伴う活動になるか、運次第、あるいは自身自身の感じ次第で、予測し難い活動のような気がします。

今回の旅を思い描いた当初、自分自身にとっては、「冒険」という感覚もない企画でした。周囲の人たちが今回の私の旅を冒険とした背景には、「年寄りの冷や水を越えられるか」ということだったと思います。今回、若干の支援を受けての条件を律儀に思い、制約され



た1ヶ月間という時間の中で、全く異なったコスタ、シエラ、セルバに区分される気候風土を巡る順応性、海拔0〜6,000mの標高への順応性、未整備のルートを辿る洞察力と技術力、そして、疲労蓄積の克服といったことが興味の対象だったかもしれません。

その結果ですが、肉体的な衰えは、人として当然あることですが、まだやれる可能性を「自ら捨て去る」必要もないと思っっている今日この頃です。



大雑把な旅の概要は次の通りです。マウンテンバイクで太平洋岸の町・チンボテからスタートし、サンタ川に沿ってネゲラ山群を越え、6,000m峰が連なるブランカ山群の峠を縫ってマリンヨンの支流を集める小さな町・ヤナマへ。そして、チャカスからブランカ山群を再び越えました。その後、アマゾン川の一支流であるマリンヨ川最上流部まで進み、太平洋と大西洋の分水嶺の位置づけになるワイワッシュ山群をトレッキングと一部マウンテンバイクで廻りました。ここでは、6,000m峰を仰ぎながら、幾つもの4,600m以上の峠

を越えて再びサンタ川へ戻る概算900kmの旅でした。そして、旅の締め括りに、好きな登山を堪能したくて、氷雪のトクヤラフ(6,034m)頂上を踏み、帰国の途につきました。

なお、今回の旅は、単純に「年寄りが楽しむ一人旅」をしたくて検討をはじめたのですが、幸運にもバックアップしてくださる会社もあって、夢が具体化した結果でした。エクアドル、ペルーでの一人旅で気楽な感覚で実行の準備を進めていきましたが、実際には沢山の心配事が目の前に現れました。例えば、1ヶ月間という限られた時間内で、未知のルートを辿ることを可能とするための治安面、健康面、テント泊が殆どとなる装備や食事の搬送、あるいは、それらの心配事を解決するための経費の追加、まあ、挙げればキリがありませんでした。

最終的には、現地の協力者(現地の旅行社を営む井上品さん、ケチユア(Quechua)語を公用語としている現地の国際山岳ガイドのアグリピノさん)のアドバイスを素直に聞き、治安だけでなく、体調や逐次変化する現地情報にも備え準備し、実行できたことが今回の満足を得た大きな要因と実感しています。

また、当初の企画決定後、私と同じ日本登攀クラブOBの玉上正行さんが同行することになったことは、一層の心強さを獲得させてくれました。玉上さんは気心知れた友人で、私よりも2歳ほど若く、7月に65歳を迎えたばかりのAROUND SEVENTY(アール・アラウンド・セブンティ)です。一人旅では味わえない一種の競い合い、励まし合いは、マウンテンバイクのペダルを踏み、氷雪の山の斜面を登る力となりました。それ

だけではなく、多くの花や鳥を含めた森羅万象の楽しみ、そして、旅先での老若男女の明るい笑顔との出会いは、改めて2倍の感覚を共有できた賜物として、友人の有難さを感じさせてくれました。(次回へ)

私に与えられた仕事について

昭42年卒 澁谷 誠一

この度、同窓生から面白い仕事をしているので蛍雪に投稿してほしいといわれて自分の仕事を振り返ってみようと思った次第です。

私は古川市内で生まれ高校時代を過ごし、明治大学商学部に入學しました。奇遇なことに同じクラスに小学校時代からの仲間で門間信夫君がおり、一緒に英語部に入部しました。

私はデイビッドセクションに入り、4年間を過ごしました。このデイビッドというものは与えられたテーマに肯定側と否定側に立ち、論争し、どちらが理論的に正しいかを競うものです。いわゆる裁判での原告側、被告側で対決し、裁判長が勝ち負けを決定するものです。当時、裁判長は早稲田大学、上智大学、立教大学などの外国人教授が裁定していました。全国大学選手権の5人制デイビッド大会で、メンバーとして優勝しました。

卒業後、外国で仕事をしたいという思いで、当時オンワード樞山がニューヨークに初めて出張所を開設し、そこで仕事をしたいと入社しましたが、まだ不確定要素があり、紳士既製部に配属となりました。その間に英語部の先輩から新会社を作り、一緒にやろうと声を掛けられ、全国のガソリンスタンドを駆け回り、車のコーティング剤を、卸

販売をしました。昭和50年代から60年代は自動車産業がうなぎ上りの勢いで成長し、車のレースやサーキット走行が盛んになり始めたことで、レーシングオイルを自分達で開発販売を手掛けることになりました。

取引先の大石石油会社出身の方にお手伝いを頂き、開発に挑みました。その方は、終戦間近に零戦戦闘機用の潤滑油開発に関わったことで、私の開発コンセプトは「頑強なオイル」を作ることになりました。高性能と言われる原料を使用し、完全合成油を作り、チューニングシロップと取引をし、テストの協力を頂いて開発、販売に邁進しました。

しかし、日本人は自分の車を大事にする傾向が強く、知らない名前のオイルを使ってくることはなかったのですが、ラリー、ダートトライアル、ジムカーナという世界で多くの仲間が出来る(自動車メーカーの競技に参加する友人等)開発に協力してくれました。小さな会社でも世界に通用するオンリー1企業になると頑張りましたが、そう簡単になれるものではなく、かなり苦労しました。今思えば何が何でも頑張れたのは一夜で40cmも積もる雪の中で小学校時代に剣道の稽古をしたり、凍えるような思いで生活したことが我慢強さを身に着けたのではないかと思うと、古川で生まれ、育ったことを感謝しております。

レーシングオイルを手掛けて今年で27年になりますが、更なる進化を求め2001年に独立し「FORTEC RACING OIL」というブランドを立ち上げました。小さな企業は儲けることを意識したら優れた製品は作れません。私の場合は、世界に通用するオイル

を目指して活動しました。最終的にはベストコンディションで走り、勝つためのオイルを目指しました。言うは易く、実現は難しく、絶えず挑戦しなければなりません。単に良い製品と言われるのではなく、勝ち負けはつきりすることが好きで大学時代にデイビッドを学んだことが潜在意識としてあり、FORTECを使って優勝したと言われるように努めました。

これまで世界ラリー選手権(WRC)では英国の名門チームをサポートし、準優勝。WRCは皆さんがご存知のF1と同格のレースです。

アジアパシフィックラリー選手権ではインドの名門チームをサポートし、2度のチャンピオン獲得、中国の国内ラリー選手権では名門のYELLOWチームを3連覇達成させ、皆さんがご存知のパリ〜ダカールラリー参戦の三菱ワークスチームにサポートし、優勝を獲得しました。又、アフリカラリー参戦の日本チームを勝たせたのでサポートしてほしいとの監督から依頼され優勝できました。選手はモナコの表彰式で羽織袴の晴れ姿で雑誌記事を見て嬉しかったですね。国内の全日本ラリー、ダートトライアル、ジムカーナという競技も盛んです。

皆さんの目に触れることは余り無いようですが、多くのドライバーをサポートし、数多くの



チャンピオンを送り出してあります。ラリーの世界では勝たなかったらFORTECしかないよと関係者から聞いた時にはとても嬉しくつくりましたが、とても嬉しい言葉です。物つくりの人間として冥利に尽きますね。

最近、一番注目されているスーパーGT300に参戦しているランボルギーニチームの監督からサポーター要請があり、その方の夢はル・マン24時間レース参戦し、勝つことが夢であると言われ、私の夢のル・マンでFORTECが使われることと意気投合しサポーターしております。昨年、菅生で8年ぶりの優勝に貢献できました。

余り車に興味のない方も多いいと思います、上記の実績によるものと思いますが、トヨタが販売しているTOYOTA 86の推奨オイルに認定されました。しかし、高額商品の為の中々売れませんでした。でも、手抜きせず本物を目指すことが世界に通用すると確信しております。香港、韓国、モンゴルなどにも輸出しておりますが、高性能評価を頂いております。FORTEC香港を現地の仲間と立ち上げたこともあり、ボルシエクラブの1/3以上の車に使われ、俳優のジャッキーチェンさんが自分の車に使い、嬉しいことにFRONTバンパーにFORTECのステッカーを貼って宣伝してくれています。

先般、TPP交渉も成立し、関税撤廃となれば、日本の優秀な製品が海外に更に輸出されると思えます。今後は世界に更なる輸出を目指し、優れたブランド品としてMADE IN JAPANに恥じぬよう貢献したいと考えております。67歳の前期高齢者ですが、夢に向かって今後も仕事を楽しまたいと思えます。

会員通信

懐かしき古川中(旧制)を偲んで校歌を歌いたいのですが歌詞が判らず歌えませんが、誠に恐縮ですが、歌詞の一番から全部送って下さい。是非お願い申し上げます。

●松本慶蔵君、京極昭君、私。3人の同級生による「3人会」を6月21日、仙台市内仙台国際ホテルで開催。

●お忙しいところ毎号、在京同窓会会報をご送付に預り、ありがたく厚くお礼を申し上げます。とてもニュースを満載した読みごたえにあふれた編集で、いつも読後は充実感を覚え敬服の至りです。会員諸氏の面影を偲びつ...

●27加美町在住 伊藤祐造 ●傘寿を過ぎて2年目、毎日努めて動きまわるよう心掛けております。元気で。

●27氏家明朗 ●正月の四校合同新年会の新春コンサートは大変良い企画でした。司会進行を努めた曾根副会長の配慮に感心しました。

●29長浦 剛 ●アメリカ在住を続けて居りますが、所要で5/28(27年)まで日本に滞在しております。年会費は振り込みました。

●30浅野和夫 ●一日一日を大切に、悔いなき人生を!!と願いつつ、思う存分暮らしています。幹事の皆様ご苦勞様です。(S30門脇敏明)

●脳こうそくの再発防止につとめています。専ら、メールで囲碁を打つて楽しんでます (S30木村哲彌)

●登山は県内周辺のハイキングになり、海外旅行も昨年(26年)は1回だけに減りました。健康体は保って居りますが、フットワークが悪くなりました。31年卒のゴルフ仲間とは、月数回は未だ回れています。

●31阿部 進 ●最近、鎌倉歴史散歩会で、運動も兼ねて参加しています。今回の「伊達政宗」も、郷里を離れているだけに興味深いです。(S31福原克彦)

●伊勢原の丹沢あたりの山を楽しんでいます。(S32佐々木勝也) ●名古屋(在住)へ来てから52年目となり

ました。元気に過しています。

●時々、機械設計依頼あるものの、基本的には自由人生活満喫と、老老介護で仙台通い。(S33菅原富男)

●地元町会でボランティアアヤつてます。在京有備会事務局局長として、会員とのパイプ役として頑張ってます。(S35梅沢和男)

●旧組織のOBでNPO活動。OB会の運営・ゴルフ等を楽しんでいます。総会当日はマンションの改修の理事会があり、出席しかねます。(S35佐々木恭二)

●自己満足の軽運動、筋トレ、脳トレに努めておりますが、休肝日を作れないのが難点です。ガン、心臓病、高血圧の兆候がみられないのが幸いです。なかなか日程が合わず、(総会に)出席できず残念です。

●80歳。20本を目標に毎日悔いのない様にして思いつく、思う様に出来ないが、あせらず、のんびり過ごしています。それにしても一日が早い。(S36佐藤宗博)

●「あの日」の母校・復興から4年余。被災地・IMF(岩手・宮城・福島)は自然派には、殊更想い出深い。我が人生の多くを学んだ。雪も雪も見当たらず茨城に約50年生活。一番不人気な県。それはともあれ、伊達政宗の講演会等総会は地元自治会、ちよつとした仕事優先となり欠席させて頂きます。大崎市(松山)出身のフランク水井等を育てた吉田正(出身地日立市)記念館が建つ。NHKラジオ深夜便で昼夜逆転生活。学べるニュース等で無知無限補充、家庭菜園(サイエンス?)・古楽や文武両道・温故知新・序破離の精神鍛錬の半端人生。毎日が教養・教育(きょうよう?)・今日行く?です。(S36菅原 徹)

●この5月で73歳となった。清少納言の「過ぎにし過ぐるもの。帆掛けるたる舟、人の齢、春夏秋冬」と納得。酒が好きで今日まで飲んだ量計り知れず。にも拘らず今所、人間ドックの数値は基準値内。必ずしも単に長生きを望まぬがピンピンコロリと行かぬのか。扱て、いつまで元気であることが出来るのか。直ぐ後期高齢者だ。(S36高橋幸裕)

●幹事の皆様、ご苦勞様です。「古稀を経しもかつての公約胸にあり 福祉の施設

をたちあげ就けり」知的障害者のためのボランティアに専念しています。(S36千葉 昇)

●全日本軟式野球連盟の評議員・関東連盟理事、千葉県野球協会の理事長をしております。学童から還暦まで、軟式野球の普及と発展に取り組んでいます。講演講師に一言。故佐々木敦・元NHKアナウンサー(愛称・トンちゃん)と同じクラスで同じ部活でした。家族でNHK放送センターを案内していただき、懐かしい。(S37阿部 孝)

●あんなにも体力に自信がありましたのに、72歳になんなんとする今、かなりの体力劣化。しかしながら今だに野球に熱中、今年は大大会で大阪へ。(S37六戸照男)

●今年も地元(古河市)のフルマソンを完走できました。タイムは下降気味ですが、ゴールできた瞬間の気持は何とも言えません。(S38三和保育園 笹原誠一)

●モニュメントの修成に帰省しました。その際、お世話になった15会の方々等に感謝の礼を尽してまいりました。(S38造形美術家 宮本信夫)

●絵画(油)と陶芸に挑戦中です。(S39細野利行)

●車のレーシングオイル発売元で、スーパーGT300ランボルギーニチームをサポーター、国内・国外ラリーチームをサポーターしております。国内、国外を飛び回っております。(S42フォルテック(株) 澁谷誠一)

●同窓諸兄の皆様方へ御礼とお詫び、謹告「先手道・森谷塾」は本年創塾30周年を迎えました。還り見るに、「当雪」の二文字が警察となり、後押しくれたと信じて止みません。此の度は誠に残念ですが、理事会が有り(総会を)欠席させて頂きます。(S42全日本空手道連盟・森谷塾 森谷里美)

●出版、総合サービス会社の経営からこの3月末、カルチャーセンターの経営に転じました。古高OB、元先生らも受講されておられます。(S45河北TBCカルチャーセンター 岩瀬昭典)

●国税職員を退官し税理士を営業して、はや2年が経とうとしています。「アツ」という間です。何とか仕事をしています。(S46税理士 鈴木博)

心よりご冥福をお祈りいたします

加藤 茂氏	(昭18年卒)
岩淵 弘氏	(昭25年卒)
平 博明氏	(昭26年卒)
都築 俣氏	(昭30年卒)
福田 強氏	(昭32年卒)
安田 浩氏	(昭40年卒)
高橋 次朗氏	(昭43年卒)
	平成25年8月13日

編集後記

大崎地方が久しぶりに豪雨による災害に見舞われた。鳴子ダムができてからひどい水害は少なくなったのだが、まさに天災は忘れたころにやってくる。この水害で大崎市の名前が一躍全国に知られるようになった。大崎の生産物が売られるればせめてもの救いか。(大友)

情報処理のエキスパート/完成図書・デジタル化総合サポート

専任スタッフ・有資格

CALS/ECインストラクター	10名
電子化ファイリング	2名
文書情報管理士	1級 1名
	2級 3名

電子納品作成支援 おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応バックアップいたします。

代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)

株式会社 ケーヨー http://www.keyo.co.jp E-mail:info@keyo.co.jp

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6
☎ 03-3242-0191 FAX 03-3242-0167